

## 我々はどのように 変化していくのか

院長 長山 直弘



平成 28 年元旦より院長に任命されました。

今後高齢者人口はさらに増え、しかも必要とされる病床数は減少する（つまり在宅医療や高齢者施設が重視される）という予測・要請が現在なされています。そのような時代の流れに沿って、私たち慢性期療養型病院はどのように変化していかなければならないかを種々考える必要があります。例えば以下の3つがあります。

第1に慢性期医療と言っても状態がすっかり安定している患者さまが入院されてくるとは限らなくなる、ということです。まだ状態不安定な、急性期を脱したばかりの患者さまの入院が増えてくると思われます。そのような状況に対応するには、私たちの医療・看護の（技術を含めた）質を高める必要があります。それにはどうすれば良いか。

第2に慢性期医療についてその意味を深く追求する任務があります。国家が赤字財政の中であって歳出の一定部分を占める高齢者医療費にはどのような意義があるかについて医療者は答えることが出来るようにならなければいけないし、そのためにどのような医療をすべきか探求しなければいけません。高齢者医療は若い人の雇用を創出するという議論では不十分です。

第3に地域に溶け込み、地域に貢献するべく努力する必要があります。これは医療・介護は各地域で完結させるべきだ、という行政の考えに沿っていますが、同時に医療・介護は個人だけでなく地域を視るという医療者の意識の変革に関わっていることです。単純に言えば私たち医療・介護従事者は一人ひとり大きい視野の中で、目の前の具体的な、小さな、仕事に没頭する、ということです。そのことを追求することでどのような地平が拓けるでしょうか。

前院長の宮崎徳藏先生は温厚な方で、周りを柔らかくまとめておられました。

責任感が強く、体調の良し悪しにかかわらず職務を全うされました。私も前院長の示されたこの二つの美德を少しでも見倣い、体験すべく精進したいと思えます。どうぞよろしく願い申し上げます。